

## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【福島県】

学校名【郡山市立小泉小学校】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者 (学年・人数)	1年生：11名 2年生：6名 3年生：7名 4年生：10名 5年生：7名 6年生：11名 計52名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 体育 道徳 ) ② 行事名 ( 学校へ行こう週間：保護者参観日 ) ③ その他 ( 学級活動 児童会活動 休み時間 朝の活動 ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	運動を楽しみながら、体力向上をめざす児童の育成 『小泉五リンピック～目標・努力・協力・友情・体力』の実践を通して
5 取組内容	【朝のマラソンタイム】 【火曜日朝のさわやかタイム】   ○ 年間をとおして実践している健康づくりの時間である。全校生での「マラソン」「ラジオ体操」に加え、眼輪筋を鍛える「eye eye 体操」・口輪筋を鍛える「あいうべ」体操（ともに学校保健委員会考案）をしている。さらに「さわやかチェック表」で自分の生活の見直しを行っている。  8月31日 屋休み 【オリパラオリエンテーション(学習・活動の見通し)】  

○ オリパラ学習についての全校集会を行った。学習をとおして付けたい力や今後の活動等について体育主任が話した。児童は、学習の見通しをもち、取り組む種目についての目標を設定することができた。

9月 2日 昼休み「あそびっ子タイム」

【ボール投げ測定】

水曜日のお昼休みは、全校生で遊んだり運動したりするあそびっ子タイム。「投げる力」向上をめざしボール投げの練習をしたり記録測定をしたりした。



※「投げる力の向上」は、昨年度の新体力テストの結果からの本校の課題である。

9月17日 児童会活動 【オリパラスローガン決定】

「一人一人が目指す最高記録！めざせナンバーワン！」

※ オリパラ教育に関わる学習活動等を「小泉五リンピック」と称した。

※ 五輪を「目標」「努力」「協力」「友情」「体力」とした。

※ 自己ベスト達成者にはメダルを授与することとし、健康委員会の児童が作成した。



○ 児童昇降口や校庭に面した教室の窓に、スローガンなどを掲示した。楽しみながら運動することやあきらめずに運動を続けることにつながった。

9月23日 【日本記録保持者による陸上教室】

体 育 陸上教室

講師：福大トラッククラブコーチ 佐藤 真有 様

参加者：全校生 場所：小泉小学校 校庭

「短距離走のスタートの仕方や走り方等の実技講習会」



- 低・中・高学年ブロックで、発達段階に応じた走り方を教わり、「ぐいぐい・ポンポン」と力強さと軽快さを意識しながら走ることができた。

10月14日 昼休み【小泉五リンピックリレー練習】



- 全校生52名を、縦割り8班に編成。目標タイムを設定し、陸上教室で学んだことを意識して走っていた。また、市陸上競技交歓会に向けて練習していた5・6年生が、バトンプスの仕方を下級生に教えている姿も見られた。

10月26日 お昼の放送 【小泉五リンピック決意表明（各学年1人）】



- 小泉五リンピックに向けて、各学年1人が放送でめあての発表をした。全校生のめあては、児童昇降口に掲示した。

11月 2日 給食 【勝ち飯給食】



- 『学校給食における「勝ち飯®」×「ふくしま“食の基本”特別メニューの提供（福島県教育庁より依頼）』に応募し、食の面からも児童の体力向上をサポートした。



11月 4日 昼休み 【小泉五リンピック①】「全校リレー」



勝ち飯

11月 5日 3・4校時 【小泉五リンピック②】

「ラジオ体操・50m走・ボール投げ・持久走」

※ 「学校へ行こう週間」 保護者各家庭2名参観可




○ 運動会の代替えともなる「小泉五リンピック」。種目は、新体力テスト種目の「50m走」「ボール投げ」、学校行事として予定していた「持久走：低600m・中800m・高1000m」、そして「全校リレー」。これまでの学習や練習の成果が表れ、自己ベストの記録を出す児童が多数いた。マスクをしながら応援も本気でいった。

○ 「小泉五リンピック」は「学校へ行こう週間」の学校開放日に設定した。保護者にも参観を呼びか、PTA役員による受付での検温等の協力のもと開催した。コロナ禍のため参観できない地域の方々へは学校HPで知らせた。

11月17日 昼休み 【小泉五リンピック集会（学習・活動の振り返り）】



○ 縦割り班でめあての振り返りをして、自分の思いや考えを伝え合った。また、自己ベストを達成した児童・グループには、健康委員会で作成したメダルの授与を行った。

	<p>11月18日 お昼の放送 【小泉五リンピック振り返り発表（各学年1人）】</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○ お昼の放送で、「小泉五リンピック」をとおして学んだことを、各学年一人発表した。目標達成の喜び・努力の楽しさ・友だちとの協力や友情・体力向上等について伝えていた。</li> <li>○ 全校児童が記入したカードを高学年児童がボードにまとめ、児童昇降口に掲示した。学年を超えて読み合い、互いを称える姿が見られた。</li> </ul>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍のもと、現段階での最善の方法で、児童に最大限に運動等の機会を提供することができた。</li> <li>○ 年間を通して、児童が自分自身の健康や体力に関心を持ち、楽しみながら運動する機会を確保できた。</li> <li>○ 児童が自ら目標に向かって努力する経験を何度も積み、満足感や充実感を味わった。また、挫折感を味わっても、新たな目標に向かって進もうとする姿が少しずつ見られるようになった。</li> <li>○ 児童に「運動の楽しさを味わうこと」や「体力向上に目標に向かって努力すること」「友だちと協力するなかで友情を育むこと」等、『小泉五リンピック』の意味や価値が根付いてきて、児童自身が次年度に向けて目標をもつようになった。</li> </ul>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校スローガン「一緒に、一所懸命」のもと、本校が以前から取り組んできた健康教育（朝のマラソン・さわやか健康チェック・さわやかタイム・あそびっ子タイム等）と縦割りの教育、オリンピック・パラリンピック教育を一つにして『小泉五リンピック』を実施したこと。</li> <li>○ 児童が、主体的・対話的に学ぶことができる場を設定したこと。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍のもと、運動量の確保とともに、体力向上につながるより効果的な運動の仕方を検討していくこと。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間をとおして、体育科だけでなく、児童会活動等の特別活動や各教科にわたって学習活動の場を設定し、教科横断的な学習を展開していく。小泉小ならではのカリキュラムマネジメントを確立していきたい。</li> </ul>